

# 福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU

発行所 福島市柳町4-29  
郵便番号 960-8648

福島民友新聞社

電話代表(024)523-1191  
編集局(024)523-1390  
販売局(024)523-1472  
振替口座 02180-8-5070

©福島民友新聞社 2014



3年ぶり6度目の優勝を決め、喜びを爆発させる尚志イレブン＝郡山市・郡山西部サッカー場

## 尚志 3年ぶり全国へ 5-0で富岡下す

県高校サッカー決勝

【第93回全国高校サッカー選手権大会県大会最終日は1日、郡山市の郡山西部サッカー場で決勝を行った。尚志が5-0で富岡に快勝し、3年ぶり6度目の優勝を飾った。

【15、22面に関連記事】尚志は前半19分、フリーキックからのゴール前の混戦で富岡のオウンゴールを誘い先制した。後半はFW林純平（3年）の2得点アシストの活躍などで4点を追加。昨年の決勝で富岡に敗れた雪辱を果たした。

尚志は12月30日、東京・駒沢陸上競技場で開幕する全国大会に県代表として出場する。組み合わせ抽選会は今年17日に行われる。



# 県高校サッカー決勝

郡山市の郡山西部サッカー場で1日に行われた第93回全国高校サッカー選手権県大会決勝で、3年ぶり6度目の優勝を手にした尚志。前回王者の富岡に5-0で快勝し、県勢初の全国ベスト4に進出した第90回大会以来の全国切符をつかんだ。尚志は前半から試合を優位に進め、先制。後半には圧巻のゴールラッシュで4点を奪って突き放し、前回大会決勝の再現となった大一番で富岡に雪辱した。【1面に本記】

# 尚志5得点 快勝

## 林のゴールで勢い



【尚志—富岡】後半14分、尚志FW林がヘディングシュートを決め、3点目=郡山西部サッカー場

尚志の「ゴールハンター」が決勝で躍動した。FW林純平（3年）は、その名にふさわしい活躍で2得点。「練習を重ねたプレーで得点を決めることができた。セットプレーからの鮮やかなゴールなどで前回決勝で敗れた富岡に雪辱を果たした。さらに直後の14分にはコーナーキックを頭で合わせ、逆転の隙をうかがう富岡を突き放した。」「どこからでもシュートを打てるし、アシストできる足もある」と仲間浩二監督は信頼を寄せるが、一方で「全国でも活躍する選手になってもらわない」と話す。厳しい声も期待の裏返しに映る。

尚志	5	富岡	0
得点者	林2、小野、中村	OG	藤本
GK	明葉康城	DF	加藤安坂
MF	新松渡山	MF	藤本
FW	林	FW	藤本
交代	後22分 藤村	後25分 藤村	後34分 藤村
後39分 藤村	後14分 高橋	後23分 高橋	後33分 高橋
後36分 高橋			

入り、素早いパス回しからゴールに迫ると、林、小野の2トップで3点を奪うなど決定力を見せ、突き放した。守備陣もDF山城を中心に、富岡の反撃を無失点でしのいだ。富岡は序盤につかんだセットプレーの好機を生かすことができず、逆に相手のセットプレーなどから失点を重ねた。

## 富岡、守備乱れ連覇ならず



連覇を逃し、肩を落とす坂本主将ら富岡イレブン

目標は全国制覇。全国大会出場を決められたことはうれしいが、自分たちの目標はあくまでも全国制覇。尚志主将のDF山城廉（3年）は完勝ともいえる内容でつかんだ優勝にも浮かれた様子を見せることはなかった。8月下旬に右足小指を疲労骨折し、全治3カ月の診断を受けたが、リハビリから準決勝で途中出場して復帰。ポルトが入ったままという右足には違和感が残るが、この日はけがの影響を感じさせないプレーでフル出場。「試合終了のホイッスルをピッチ上で聞くことができたことは良かった」と初めて表情を緩めた。

3年ぶりに栄冠を勝ち取り、全国の舞台へ。「全国大会は憧れだった」と、尚志の先輩からの勧めで入学した林は、この冬、夢にまで見たピッチに立つ。「体を張ったプレーで決定力を高めていきたい」。林の力強く発する言葉には、優勝を胸に刻んだ自信が垣間見えた。（佐藤雄）

2点の林ら優秀選手 県サッカー協会は1日、今大会の優秀選手15人を発表した。優勝した尚志からは決勝で2得点したFW林純平（3年）ら4人が選ばれた。GK＝中村涼人（聖光学院）▽DF＝坂本敏樹、佐藤幸希（富岡）角田祐介（学芸大）▽MF＝稲村知大、津田亘介、鈴木大（尚志）鈴木真澄（富岡）斎藤未来（福島工）鈴木順一朗、楠瀬駿雅（帝京安積）松本啓輔（湯本）▽FW＝林純平（尚志）松本悠馬（福島工）村上涼（郡山商）

準決勝までの3試合で無失点を誇った守備陣が崩され、5失点を喫した富岡。連覇の夢に、あと一歩のところまでたどり着きながらの敗戦に「悔しいけれど尚志は自分たちより強かった」と主将のDF坂本敏樹（3年）は絞り出すように話した。前半にオウンゴールで先制されたが、佐藤弘八監督が「ハーフタイムに戻ってきた選手たちは落ち着いてきた」と話すように、選手に焦りの色はなかった。

しかし、後半11分に右サイドを崩されて失点すると、これまで相手の攻撃を何度もね返してきた坂本率いる鉄壁の守備陣にほころびが見え始め、修正する間もなくセットプレーで3点目を奪われると、最後まで一度狂った歯車に戻ることはなかった。「富岡の名前を全国に広げ、残していきたい」と思っ「ここまで頑張ってきた」と坂本。「来年は絶対に優勝して全国に行ってほしい」と夢を後輩に託した。



## 支え合うチーム誇り

誇らしげに見つめる先に、イレブンの姿があった。「本当にほっとしている。最高の気分」。こみ上げてくる喜びに思わず目尻が下がる。「監督としての立場がある」と前置きした上で、こう語った。「選手たちは、サッカーを愛する仲間。そんな子どもたちに支えられ、今日の優勝がある」。選手との距離が近い指揮官は、「仲間」と

今年「不安材料」と充実した選手層の厚さにも自信をのぞかせる。主力3人がけがで万全でない点が懸念材料だったが、つないで相手DF陣を崩す決勝の得点は、好調さを象徴した理想の試合展開だった。胸上げでは3回、宙に舞った。4回目は上がらなかった。「重かったのかな」。無精ひげを蓄えた口が緩む。4回目以降は、全国大会の舞台で舞う。（報道部・佐藤雄亮）

全国高校サッカー県大会で優勝した尚志の監督

仲村浩二さん

顔

千葉市出身。順大卒。バルセロナ五輪代表。福島FCで活躍し、1998年に尚志高監督に就任。42歳。



# 笑顔の誓いで頂点に

## 県高校サッカー尚志V

「県大会を笑顔で終わろう」。尚志高イレブンは誓いを立ててピッチに立った。郡

山市の郡山西部サッカー場で1日行われた第93回全国高校サッカー選手権県大会決勝。昨年と同じ顔合わせとなった大一番は尚志が富岡を5-0で下し、3年ぶりの栄冠を手にした。【一面に本記】



## 活躍の中村選手 震災で「地元愛」

表彰式を終えた選手は応援席に向かって真っ先に駆け出し、雨の中でも声援を送り続けてくれた部員や同級生と喜びを分かち合った。後半25分に途中出場し、ダメ押しの5点目を決めた中村駿介選手（3年）は郡山市出身。「（高校）に入学してからの3年間、全国高校サッカー選手権を経験していなかったのが楽しみな気持ちでいっぱい」と地元での優勝に頬が緩んだ。

中村選手は中学時代、同市のクラブチーム・ラッセル郡山でプレーした。原発事故の影響で、屋外で練習できない時期も経験したという。県外の高校に進む道もあったが「震災があったからこそ愛着が深まった」と地元に残ることを選択。全国ベスト4の経験もある尚志への憧れもあった。

全国大会の切符をつかん

【尚志・富岡】5点目のシュートを決める尚志の中村選手（郡山市・郡山西部サッカー場）

だが、これで終わりではない。「目標は全国制覇」と表情を引き締める。「活躍すれば地元の人が喜んでくれる。期待に応えたい」。中村選手の表情が輝いた。